

古い坂越の年中行事

日付	祭名	補足	意味
1月1日	元旦	名刺くばり	年始代わりのの名刺を配って回った。
1月2日		若水	戸主が早朝井戸から水を汲み家族一同がそれで洗顔した。
			一年の縁起を担いで、泣く、怒るをやめ「福が出る」と言って、表戸は閉めたままにした。
	歳旦祭	大避神社	新年の神事を執り行う
	事始め		商家では仕事始めの祝儀として当日最初の客に鏡餅を進呈した。
			イナ座の者はこの日から操業を始め、仕事始めとして豆腐汁を食べて祝った
			漁業者は、洗い米・塩・田作り等を供え船霊様にお神酒を船にかけ、船の横を「オーダマ」と言って叩き、人に見られないように早朝暗いうちに船を出した。人に会っても物を言うなど言い、人に知られないよう大漁祈願をした。
			各青年団は二日を「初寄り」とした。
1月4日		ゴワカシ雑炊	大根をおろして入れた味噌味の雑炊を食べた。
1月7日		七草雑炊	六日の晩七草を茹で、七日の朝雑炊にして食べた。
		山海の禁忌	山の神が暴れるから、九日は山へ行ってはならぬと言われ、漁師も毎月九日は船を出さなかった。
1月10日		十日恵比寿	今は大避神社に合祀されているが、かつては本町・小島にあった社に参拝した。大漁祈願に多くの漁師が参拝した。
1月12日		とんどの準備	子供が生島へ枯れ木や倒木を取りに行った。とんどの時のみ許された。子供が正月飾りを集めて回った。
1月13日		とんどの組み立て	とんど組み立て、十三日から十五日まで子供達はとんどが倒されたり、燃やされたりしないよう「夜番」をした。囲炉裏では餅、するめ、芋などを焼いて食べた。
1月15日	とんど		小豆粥・ぜんざいを食べた
			花嫁さんに「祝いましょう」と言って、橙にとんどの炭を塗り、これで花嫁の顔に炭をぬり祝福した。
2月1日		ひとえ正月	尾頭付きの魚を食べた。
	初午		稲荷神社の神事。大避神社には春島、藤島、光玉稲荷が祭られている
	二の午		妙見寺では白勢稲荷(山の守り神)の神事
2月4日	節分	豆まき	各家々で行っていた。大避神社境内でも

2月20日	祈年祭		五穀豊穡の祈願
3月		大漁祈願	鰯漁・いかなご漁の始まる前、二月末、五月末の大安に船飾りをして湾内を三周して大漁祈願をした。網元は漁夫にご馳走を振る舞った。
3月10日	陸軍記念日	山遊び	男の子は弁当を持って山に登り、戦争ごっこをして遊んだ。
4月3日	雛祭り		坂越では月遅れで祝った。三月になると嫁の実家や親戚にハナモチを配った。そして実家から内裏雛、親戚から三人官女、五人囃子などが贈られた。
		ヒナアラシ	近所の女の子は宵節句に「初雛」の家へ「雛見せてんか」と言って訪れ、お菓子、ご馳走をよばれた。お菓子などをくれなかった時は「見せん雛ならほっとけだんよ、だんよ」と言って囃したてた。
4月8日	灌仏会	花見	シंगाサンニチと言い桜を見に弁当を持って山に登った。
		釈迦まつり	妙見寺、妙道寺、常楽寺などで釈迦誕生の法要が営まれ、甘茶がふるまわれた。
		虫除けのまじない	甘茶をもらって帰り、それで墨をすり「ちゃ」と書いて柱の下のほうに逆さに貼ると虫(百足)除けになると言われた。
4月21日	大師祭	お大師さん	甘茶の接待をうけた。
5月13日	高德祭		元は高川家が、祀っていたが、大正三年に奥藤家を中心に町全体で整備して祀るようになった。春は坂越の桜祭り、冬は赤穂の義士祭ということで、四月第二日曜日の桜祭りの日に祭典が行われたが、十三日会によって五月十三日に墓前で神事が行われるようになった。現在は児島高德顕彰会によって妙見寺に引き継がれている。
5月21日	降誕会	初参式	この日に親鸞聖人誕生の法要が営まれ、生まれた子供が門徒になる儀式「門徒付け」が行われる。
5月27日	端午の節句	海軍記念日	海軍記念日の五月二十七日に端午の節句が行われていた。初節句を「初幟」といい、嫁の実家や親戚に「オンビキ」といわれる大きな柏餅を配った。嫁の実家からは鯉のぼりや武者人形が贈られた。菖蒲湯に入り、男子は菖蒲の根で角鉢巻きを、女子は葉でかんざしを作り、魔除けとした。
中旬		魚島	漁業関係者はこの時期に魚が出揃うことを祝い親戚を呼んで祝いの善を持った。藩主や旦那衆も招かれた。
6月	オオアワセ	大漁祈願	三月と同じく船飾りをして、湾内を三周して大漁祈願をした。
6月30日	大祓い	輪こし	半年間の無病息災を感謝し、残りの平穏を祈願する行事。大避神社から雛形を切り抜いた紙をもらい、これに干支、性別、名前、歳を書いて十二文を包み、茅輪をくぐり神殿に供えた。この雛形を神官が深夜十二時に千種川へ流した。この日から浴衣を着た。
7月12日	夏祭り	合祀まつり	明治三十四年の合祀により大避神社に集められていた、荒神(高谷)、恵比寿(小島)、福寿稲荷(汐見)をもとに戻し、祀るようになった。今は荒神(東)恵比寿(本町)、天神(北)がある。
7月17日		般若心経の虫干し	妙見寺では大人も子供も手伝って年に一度般若心経の虫干しをした。

7月20日頃	土用		土曜餅・鰻を食べた。紫陽花の花を部屋に吊すと衣装が増えると言って吊した農家では牛を海で洗っていた。
7月25日	天神祭り		習字を書いて貼ったり、生花の展示などを行っている。
			七月十一・十二日は東、二十五日は西・北、八月二十三・二十四日は鳥井町で柏餅・おまぜをして親睦を深めていた。
8月7日	七夕		坂越では月遅れで祝った。浜地域では八日早朝海へ笹(七夕)を流した。
8月15日	お盆	盆踊り	七夕が終わった頃から始まり、地蔵盆まで行われ、各町重ならないよう協議していた。坂越の盆踊りの特徴は、輪にならず、二列になって、仮装して踊った踊りは朝まで夜通し続いた。その夜にかぎり男女交際が許されたため、各人工夫を凝らした。主催者である町は、会場の入り口に高張り提灯を掲げ、他町は祝い酒を持参し、高張り提灯の周辺に町の提灯を置いた。提灯の火が消えると恥とされた。盆踊り歌は「播州くどき」の流れを汲むもので、三味線と酒樽太鼓で伴奏をとった。この日は博打が許されていた。坂越は地蔵盆まで盆踊りで明け暮れしていた。
8月23日	地蔵盆		汐見は岩崎家、鳥井は奥藤家、西は大西家と個人の家の供養地蔵であった現在は町で祀っている。その他に他所三味の地蔵がある。
10月12日	秋祭り	船渡御祭	坂越の一代イベントである。(坂越の祭りで紹介)
11月	亥の日	亥の子うち	11月最初の亥の日に行く。子供だけで行う行事で「五輪」(瓢箪型の石)に縄をつけて、引っ張りあったり道をつきながら町内を練り歩いた。「五輪」には組があり下高屋と鳥井、北と東之町、汐見と本町、西と上高谷とが一組になり、歌をうたいながらやった。この日から炬燵を入れた。
12月初旬	報恩講		親鸞上人の恩に報いる集まり。正信偈、説教などが寺で行われた。各家々では「いとこ煮」をして食べた。
12月30日・31日		餅搗き	十二月二十六日頃餅つきをして、娘の家へ配ったりしていた。一般的には三十日、三十一日に餅つきをした。二十八日の餅つきは嫌われていた。
		準備	仏具の金物を磨いたり、棚飾りをした。鏡餅、モチ花、門松(玄関に建てることはせず柱に松・竹・梅を半紙でくるみ打ちつけた)、船飾りそしてすべての準備が終わってからしめ縄を飾った。
		ヒアンド	新年を迎える行事。大晦日の夜七時頃、子供たちが宮詣でをし、提灯を持って、各町それぞれの近くの山に登り、「ヒアンド、ヒアンド、アネサン マットクランセ、ヨサクロエ」と言いながら提灯を振った。
		大晦日	氏神様の大祓に参詣し、除夜の鐘を聞いて寝る。